

(事後評価)

おもやいキャンパスサポート～長大モデル～

(実施期間：平成 21～23 年度)

実施機関：長崎大学（総括責任者：片峰 茂）

プロジェクトの概要

本学のプロジェクトは、「女性研究者支援センター」を設置し、「人間環境支援」、「両立支援」及び「女性研究者拡大支援」の三つの柱により、次の事業を推進し、女性研究者を支援、育成する環境づくりを行う。

- ① 支援を受けたい女性研究者の登録及び支援を提供できる学生及び教職員の登録を行い、マッチングさせることにより育児をスポット的に支援する「おもやいキャンパスサポート」を整備するとともに、将来、支援を受けた女性研究者が支援提供側にまわる循環型の支援モデルの定着を目指す。
- ② 「女性研究者支援センター」を設置し専門職員（コーディネーター、カウンセラー）を配置するとともに、メンター制度を導入し、両立支援相談体制を整備する。
- ③ 男女共同参画に対する教職員の意識改革に向けた啓発活動を行うとともに、フレックス・タイム制から裁量労働制への導入を検討する。
- ④ 女性教員（研究者）の出産、育児休業に際し、テクニカル・スタッフを雇用する。
- ⑤ 教員の後任補充にあたり女性枠を設定し、女性研究者の拡大に努める。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組の内容	システム改革の成果	実施体制	実施機関終了後における取組の継続性・発展性
A	a	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

女性研究者のための両立支援を全学的に推進した。特に、学生と教職員からなる支援提供者を 40 人規模で組織し、女性研究者の育児支援として一時保育を実施する体制（おもやいキャンパスサポート）を整備し、運用したことは評価できる。今後は、女性研究者在籍

比率 20%という目標達成のため、取組を継続、発展させ、地方大学のモデルとなることを期待する。

・**目標達成度**：女性研究者採用率、在籍率については未達だが、おもやいキャンパスサポート制度及びメンター制度の構築、研究支援員の配置、裾野拡大の取組等は所期の計画に沿って実施されており評価できる。部局別の女性教員採用目標数の決定、女性研究者を採用した部局へのインセンティブ経費の付与等が進められており、今後の女性研究者の増加を期待する。

・**取組の内容**：おもやいキャンパスサポート、任期制教員の育児休業取得についての特別措置等は特色ある取組であり、効率的に運用が進められており評価できる。

・**システム改革の成果**：女性教員採用比率はわずかに目標値に届かなかったが、学内の意識改革が進み、女性教員の採用が増加したことは評価できる。部局別の女性教員採用数値目標の設定は先進性があり、今後の女性研究者数の増加を期待する。

・**実施体制**：学長のリーダーシップの下、女性の副学長を中心とする全学的な男女共同参画推進センターが構築され、取組が迅速に実施されたことが評価できる。

・**実施期間終了後における取組の継続性・発展性**：取組の継続性を担保するため体制の確保と予算措置を行い、実施期間中に実施したすべての事業を継続するとともに、学内学童保育の試行などに発展的に取り組んでおり評価できる。